

表23 前回の職場を退職した理由 (年齢階層別)

(最近5年間に前回の職場を退職した者・年齢は退職時のもの)
上位5項目, () 内回答者数

	複 数 回 答		主 な も の ひ と つ	
		%		%
20代	(343)		(347)	
	仕事内容への不満	38.2	結 婚	14.7
	他分野への興味	28.3	仕事内容への不満	11.0
	労働時間への不満	20.7	他分野への興味	10.1
	結 婚	20.4	進 学	8.9
代	人間関係	16.9	人間関係	5.5
30代	(117)		(123)	
	仕事内容への不満	26.5	仕事内容への不満	9.8
	人間関係	23.1	結 婚	7.3
	他分野への興味	18.8	人間関係	7.3
	出産・育児・子供の ため	16.2	出産・育児・子供の ため	6.5
代	別の職場からの誘い	16.2	配偶者の転勤	6.5
			他分野への興味	6.5
40代	(42)		(47)	
	仕事内容への不満	33.3	仕事内容への不満	8.5
	人間関係	31.0	別の職場からの誘い	8.5
	他分野への興味	31.0	他分野への興味	8.5
	別の職場からの誘い	25.0	勤め先側の理由	6.4
代	賃金への不満	16.7	出産・育児・子供の ため	6.4
	自分の適性・能力への不安	16.7	配偶者の転勤	6.4
			人間関係	6.4
			通勤に不便	6.4

表24 前回の職場を退職した理由 (勤務場所別)

(最近5年間に前回の職場を退職した者)
上位5項目, () 内回答者数

	複 数 回 答		主 な も の ひ と つ	
		%		%
病 院	(438)		(448)	
	仕事内容への不満	31.1	結 婚	11.8
	他分野への興味	24.4	仕事内容への不満	9.4
	労働時間への不満	17.8	他分野への興味	8.9
	人間関係	17.6	進 学	6.5
所	結 婚	16.7	人間関係	4.9
診 療 所	(50)		(51)	
	仕事内容への不満	42.0	進 学	11.8
	他分野への興味	28.0	仕事内容への不満	9.8
	賃金への不満	22.0	契約期間満了	7.8
	労働時間への不満	20.0	結 婚	7.8
代	契約期間満了	18.0	勤め先側の理由	5.9
	人間関係	18.0	人間関係	5.9
			労働時間への不満	5.9
			他分野への興味	5.9

VI 職業継続をめぐる意識

1 職業継続意志

職業継続についての意識を〈図20〉に示す。今後のマンパワーの動向を左右する20代の未婚者も、一般女子労働者と比較して就業継続意識は高いといえる。20代で現在離職中の者は、「なるべく働き続ける」39.0%、「結婚・出産を機に一時退職し子供が手を離れたら再就職する」46.3%と回答

している〈統計表133〉。

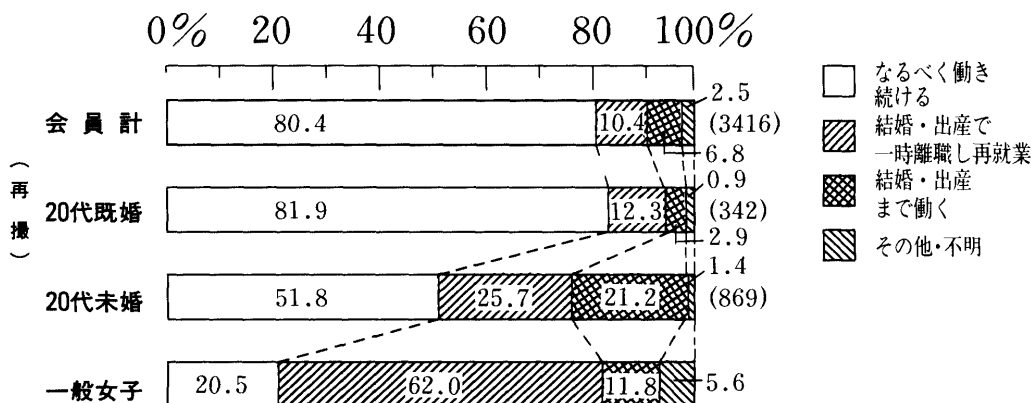
2 職業継続のため改善すべき項目

働き続けるために改善すべき項目 (複数回答) は、〈表25〉のとおりである。

看護職員の増員は、労働時間短縮、夜勤回数軽減・育児休業の利用拡大などのために不可欠の前提条件であり、この点についての認識が広く共有

図20 職業継続意志（離婚中の者および勤務形態無回答をのぞく）

※（ ）内回答者数



一般女子：内閣総理大臣官房広報室「女性の就業に関する世論調査」(1989(平成元)年10月)より。「一般的に望ましい女性の就業のあり方」についてのフルタイム女子雇用者の回答。

されている。給与の改善は第2位にあがっており、収入に対する不満は高い〈統計表154〉。しかし前述のとおり、賃金の問題は職場選択理由・退職理由のいずれにおいても上位にあがっていない。賃金については不満であるが、現実にはどの職場についても賃金レベルには大差がないため、実際の職場選択にあたっては直接的な判断材料にはなっていないと見ることができる。

3 おわりに

現在就業している看護職員の就業意欲は高い。しかしながら、前項で見たように労働条件のきびしさが現実に看護職員の就業継続を難しくしており、各職場での看護職員の増員により早急に労働条件を改善することが望まれる。同時に、退職理由として仕事内容への不満が上位にあがり、次の

表25 職業継続のために改善すべき項目（複数回答）

①看護職員の増員	70.8%
②給与の改善	55.6
③週休2日制・労働時間短縮の実施	46.7
④夜勤回数の軽減	36.4
⑤保育所の充実	23.1

職場選択の理由が看護内容への期待であるという結果から、労働条件のみならず職場でより充実感を得られるような業務管理の必要性を改めて指摘したい。現在の就業者の就業意欲を生かし、この人々を職場に止める対策が重要である。このことが同時に、今後看護職をめざす人々に看護職としての仕事の魅力をアピールすることにつながるといえるだろう。